

第一次野々市市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の推進結果

計画の期間

平成 22 年度(2010 年度)から令和3年度(2021 年度)まで

温室効果ガス等の削減目標

二酸化炭素排出量について、平成 20 年度(2008 年度)を基準年度として、最終年度である令和3年度(2021 年度)には 10%削減することを目指す。

エネルギー使用量については、平成 20 年度(2008 年度)を基準年度として、最終年度である令和3年度(2021 年度)には 15.6%削減することを目指す。

推進結果及びまとめ

- ・計画期間の最終年度である令和3年度の二酸化炭素排出量は、基準年度(平成 20 年度)と比較して 8.9%の増加となり、10%削減という目標は達成できていない(下図 左)。
- ・令和3年度のエネルギー使用量は、削減目標を達成できてはいないが、基準年度(平成 20 年度)と比較して 6.2%削減できており、省エネルギー化の成果が表れている(下図 右)。
- ・エネルギー効率の良い電気への転換を進めたことから、エネルギー使用量における電気の使用量の構成割合が 76.5%と高く、二酸化炭素排出量の多いA重油をはじめ、電気以外のエネルギー使用量が基準年度比で大幅に減少している。引き続き、施設の更なる省エネルギー化を推進する。

(補足)

・エネルギー使用量における電気の使用量の構成割合が高いため、本市の事務・事業における二酸化炭素排出量は電気の排出係数の影響を受けやすい。排出係数は、1kwhの電気を供給するにあたりどれだけの二酸化炭素を排出しているかを示す指標であり、発電手法によって変わり、二酸化炭素の排出量が少ないほど排出係数も低くなる。

備考

令和4年度からは、第二次野々市市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(令和4年3月策定・令和5年3月改定予定)に基づいて地球温暖化対策を推進している。

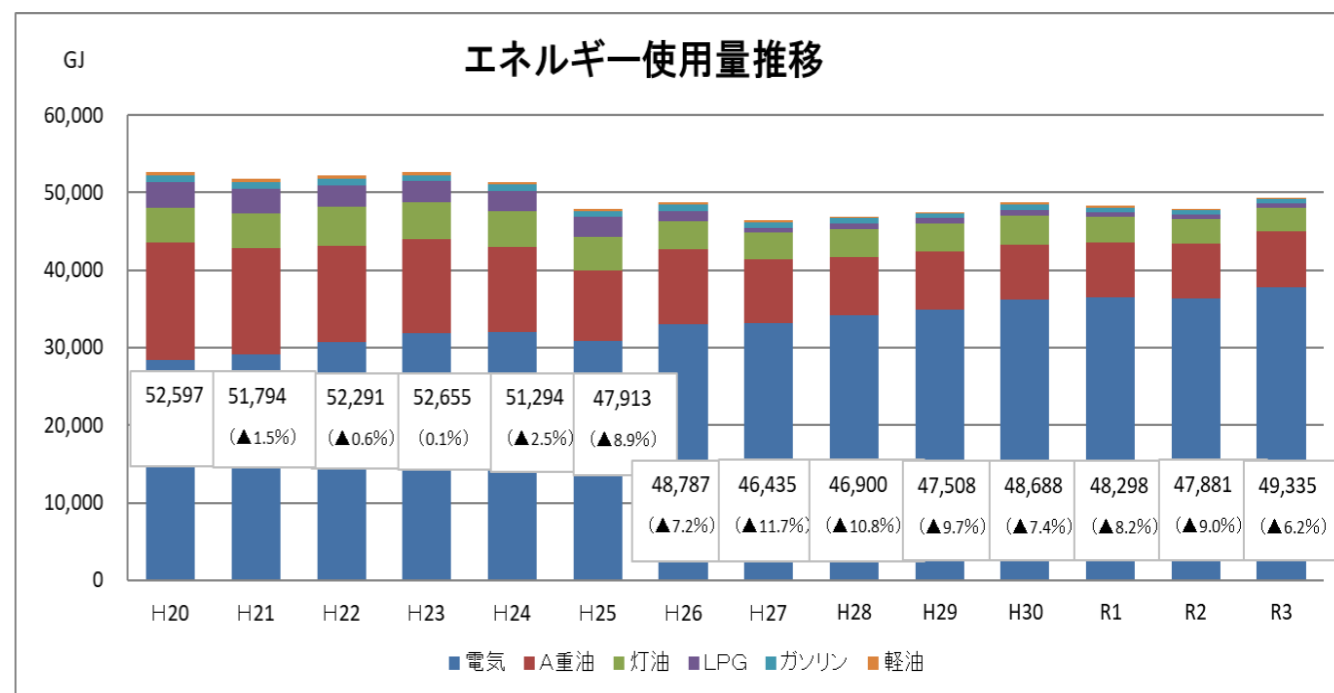
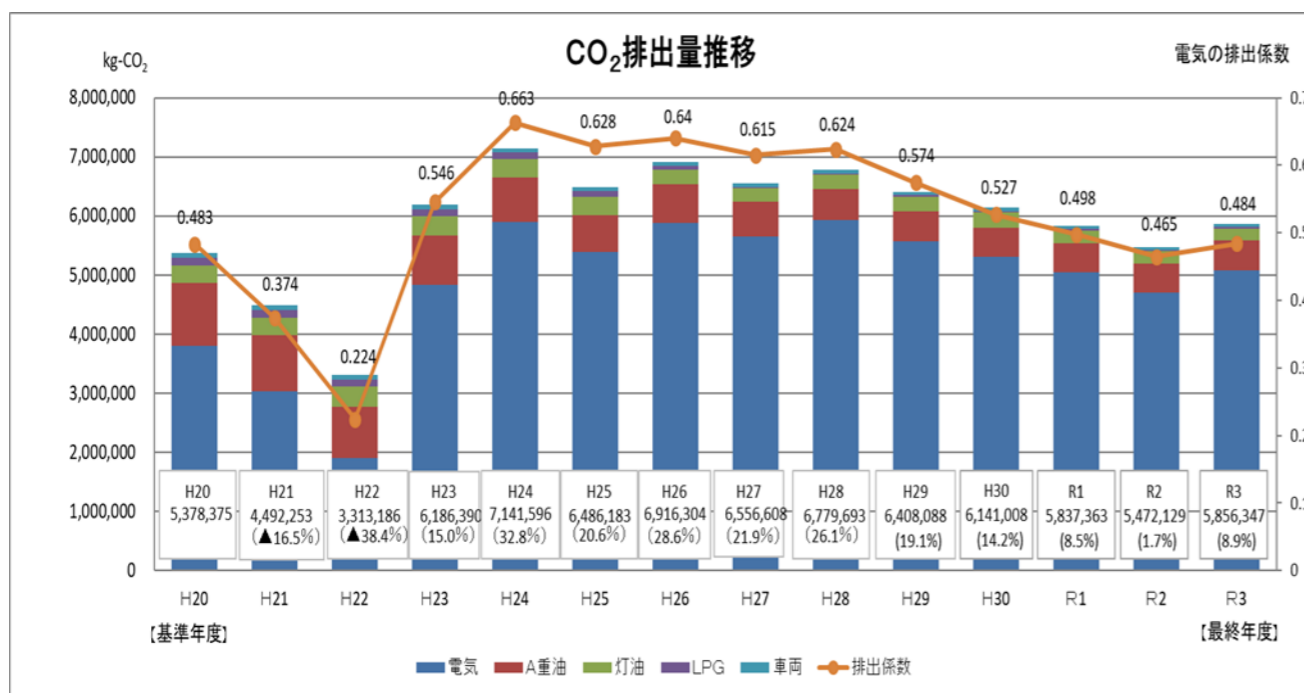


表 1 発生源別二酸化炭素排出量 (単位: kg-CO₂)

要因	平成20年度 排出量 (基準年度)	令和2年度 排出量	令和3年度		
			排出量	構成割合	基準年度比 増減
電気	3,805,799	4,700,609	5,075,948	86.7%	33.4%
A重油	1,051,878	485,024	505,077	8.6%	-52.0%
灯油	309,374	215,830	205,824	3.5%	-33.5%
LPG	127,186	24,205	21,204	0.4%	-83.3%
施設計	5,294,237	5,425,668	5,808,053		
車両	84,138	46,461	48,294	0.8%	-42.6%
合計	5,378,375	5,472,129	5,856,347	100.0%	8.9%

表 2 発生源別エネルギー使用量 (単位: GJ)

要因	平成20年度 使用量 (基準年度)	令和2年度 使用量	令和3年度		
			使用量	構成割合	基準年度比 増減
電気	28,366	36,392	37,755	76.5%	33.1%
A重油	15,179	6,999	7,288	14.8%	-52.0%
灯油	4,561	3,182	3,034	6.2%	-33.5%
LPG	3,252	619	542	1.1%	-83.3%
施設計	51,358	47,192	48,619		
車両	1,239	689	716	1.5%	-42.2%
合計	52,597	47,881	49,335	100.0%	-6.2%